

学芸員補に関する科目（令和6年度入学生用）

科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	摘要
90010	90011	生涯学習概論（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	高橋 英子	[司]「生涯学習概論」で相互乗入読替 いずれか一つ履修
90010	90012	”（月曜Ⅳ限）						
90020		博物館概論	2	30	1	前期	角屋由美子	
90030		博物館経営論	2	30	1・2	後期	佐藤 琴	
90040		博物館資料論	2	30	1・2	後期	角屋由美子	
90050		博物館資料保存論	2	30	1・2	集中	塩田 達也	後期開講（2～3月）
		博物館展示論	2	30	2	前期	阿部 哲人	
90070		博物館情報・メディア論	2	30	1・2	後期	小池 隆太	
90080		博物館教育論	2	30	1	前期	山口 博之	
		博物館実習一	1	45	2	前期	阿部 哲人	「博物館実習一」と「同二」を併せて受講
		博物館実習二	2	90	2	集中	吉田・小林	学外実習

(注) 「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる

学芸員補に関する科目（令和5年度入学生用）

科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	摘要
90010	90011	生涯学習概論（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	高橋 英子	[司]「生涯学習概論」で相互乗入読替 いずれか一つ履修
90010	90012	”（月曜Ⅳ限）						
		博物館概論	2	30	1	前期	角屋由美子	
90030		博物館経営論	2	30	1・2	後期	佐藤 琴	
90040		博物館資料論	2	30	1・2	後期	角屋由美子	
90050		博物館資料保存論	2	30	1・2	集中	塩田 達也	後期開講（2～3月）
90060		博物館展示論	2	30	2	前期	阿部 哲人	
90070		博物館情報・メディア論	2	30	1・2	後期	小池 隆太	
		博物館教育論	2	30	1	前期	山口 博之	
90090		博物館実習一	1	45	2	前期	阿部 哲人	「博物館実習一」と「同二」を併せて受講
90100		博物館実習二	2	90	2	集中	吉田・小林	学外実習

(注) 「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	学芸員必修
担当教員			
高橋 英子			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	生涯学習の理論や歴史的動向、法制度に関する基礎的な理解を深める。 生涯学習の意義や理念を具体的な実践事例に照らして考える力を身に付ける。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・生涯学習社会の意義</p> <p>第2回 生涯学習と現代社会</p> <p>第3回 生涯学習の理念</p> <p>第4回 生涯発達と生涯学習</p> <p>第5回 生涯学習を支える社会教育</p> <p>第6回 社会教育行政</p> <p>第7回 専門施設としての図書館</p> <p>第8回 専門施設としての博物館</p> <p>第9回 女性と生涯学習</p> <p>第10回 ボランティア活動と市民活動</p> <p>第11回 学校・家庭・地域の連携協力</p> <p>第12回 リカレント教育の理論と実践</p> <p>第13回 大学開放・社会人教育・キャリア教育</p> <p>第14回 学習への支援と学習成果の評価</p> <p>第15回 まとめ ※関係法令は講義内で随時触れる。</p>
授業概要	授業は講義形式で行う。生涯学習の基礎的な概念や法令、施策の動向や社会教育行政、学校教育・家庭教育との関連、社会教育施設、専門的職員の役割、生涯学習活動への支援等について概説する。
実務経験及び授業の内容	生涯学習相談員としての勤務経験、また生涯学習推進会議委員として「生涯学習推進計画」づくりに関わった経験があり、これらの実務経験を生かし生涯学習概論の授業を行う。
時間外学習	翌週部分のテキストを予め読み授業に臨む。身近な生涯学習施設(図書館、美術館、博物館等)の利用、学習機会(講座、講演会、イベント等)に関心を持つなどして、学習テーマを主体的に考える。
テキスト	笹井宏益・中村香著『生涯学習のイノベーション』玉川大学出版部、2013、(価格2400円＋税) 大学内の購買部で購入可能。 日本図書コード (ISBN) : 9784472404504
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	生涯学習は理論や法令を覚えるだけでなく、学びへの主体的参加が大切です。講義では実践事例を紹介したり、また話し合い学習やミニレポート等により皆さんの経験や考えも参考にします。具体的なイメージを持って生涯学習の理解を深めましょう。
評価方法	テスト(50%)、ミニレポートの提出(30%)、授業への参加度(20%)。授業は2/3以上の出席が必要。
参考文献	必要に応じて関連する資料やレジュメを授業内で適宜配布する。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	学芸員必修
担当教員			
角屋 由美子			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	博物館の目的と機能、その歴史と現状、博物館倫理、関連法規等博物館に関する基礎的知識の習得を図ることをねらいとする。 博物館のあるべき姿を模索し、生涯学習における博物館の役割と成長を考えながら、博物館の見方、利用の仕方等についても理解を深める。
授業計画	<p>第1回 博物館学とは</p> <p>第2回 博物館の歴史（世界）</p> <p>第3回 博物館の歴史（日本：古代～近代）</p> <p>第4回 博物館の歴史（日本：近代・現代）</p> <p>第5回 博物館の機能</p> <p>第6回 博物館の役割と入館者（役割）</p> <p>第7回 博物館の役割と入館者（博物館への入館）</p> <p>第8回 博物館教育と職員</p> <p>第9回 博物館学芸員の専門性</p> <p>第10回 博物館の管理/運営（管理機関と計画・評価）</p> <p>第11回 博物館の管理/運営（類縁機関・サポーター）</p> <p>第12回 博物館とその建物（建築空間の具体的設計）</p> <p>第13回 博物館とその建物（備品・照明）</p> <p>第14回 博物館倫理／博物館関連法規</p> <p>第15回 博物館変革の時代 （講義内容に変更場合があります。）</p>
授業概要	講義を中心に考え方や意見を求める。
実務経験及び授業の内容	学芸員として博物館に30年以上勤務しており、この経験を生かし、変化に応じた博物館の最先端の動向を授業に反映する。
時間外学習	土日祝日を利用して、さまざまな博物館・美術館・資料館を見学しに行くこと。
テキスト	必要に応じてプリント等を配布。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	歴史・美術・民俗・考古・自然科学・保存科学等の専門分野は現場において重要なことであるが、その前提として博物館の機能についての共通認識と、博物館の種類による特徴を明らかにして、博物館とはいかなる施設かを理解してほしい。 博物館法や文化財保護法、自治体の条例の改正等により博物館資料の活用へ、比重がシフトする現状において博物館のあるべき姿を学生の意見を聞きながら、ともに考えたい。
評価方法	試験、授業への参加度
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	学芸員必修
担当教員			
佐藤 琴			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	博物館が社会において果たすべき役割を明確にし、博物館経営学の具体的な方策を立案および実行する元となる知識を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 博物館経営論とは</p> <p>第2回 博物館関係者の行動規範 博物館の経営資源と特性</p> <p>第3回 ヒト 博物館を支える人々</p> <p>第4回 ヒト 独立行政法人と指定管理者制度</p> <p>第5回 ヒト 官民連携</p> <p>第6回 モノ 立地・建物・設備</p> <p>第7回 カネ 予算・経費</p> <p>第8回 カネ クラウドファンディング</p> <p>第9回 情報 PR・インターネット</p> <p>第10回 博物館の評価</p> <p>第11回 実在の博物館を例に経営について考えてみる 1</p> <p>第12回 実在の博物館を例に経営について考えてみる 2</p> <p>第13回 実在の博物館を例に経営について考えてみる 3</p> <p>第14回 これからの博物館</p> <p>第15回 まとめと試験</p>
授業概要	博物館経営の意義と基礎知識を講義する。近年の経営方法の多様化と様々な主体との連携についてもとりあげ、今必要とされている知識の修得に努める。
実務経験及び授業の内容	学芸員の実務経験がある。この経験を活かし、博物館での実践を通して獲得した知見を伝達する。
時間外学習	土日祝日を利用して、さまざまな博物館・美術館・資料館等を学芸員の視点で見学するように努めること。
テキスト	授業資料は教員が作成して配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	博物館に限らず、経営とは経営者だけのものではない。創造的に働く全ての者が考えなければならない。また、博物館は社会的使命があり、その達成のためにいかに活動をすすめていくかを考えることが博物館経営である。
評価方法	博物館見学レポート 30% 期末レポート 70%
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	学芸員必修
担当教員			
角屋 由美子			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	博物館資料の概念及びその収集・整理保管・保存・調査研究・展示という一連の流れや、それぞれに関する知識の習得を図り、理論と実践の関係を定着させる。
授業計画	<p>第1回 博物館資料とは</p> <p>第2回 博物館資料の収集</p> <p>第3回 博物館資料管理システム</p> <p>第4回 博物館資料の分類/整理(受入から登録まで)</p> <p>第5回 博物館資料の分類/整理(分類と配架)</p> <p>第6回 博物館資料と調査研究</p> <p>第7回 美術工芸資料について(古文書/典籍)</p> <p>第8回 美術工芸資料について(絵画)</p> <p>第9回 美術工芸資料について(仏像/仏具)</p> <p>第10回 美術工芸資料について(甲冑/刀剣)</p> <p>第11回 美術工芸資料について(染織)</p> <p>第12回 歴史資料について</p> <p>第13回 民俗資料について</p> <p>第14回 博物館資料の修理/修復－国宝上杉本洛中洛外図屏風を中心に</p> <p>第15回 博物館資料の修理/修復－国宝上杉家文書を中心に (講義内容に変更の場合があります。)</p>
授業概要	講義を中心に考え方や意見を求める。
実務経験及び授業の内容	学芸員として博物館に30年以上勤務しており、この経験を生かし、変化に応じた博物館の最先端の動向を授業に反映する。
時間外学習	専門用語等の分からない言葉を辞書や関連図書を使用して事前に調べておくこと。
テキスト	必要に応じてプリント等を配布
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	博物館資料は博物館の主体をなすものであるから、資料管理の重要性と利便性、情報発信・教育普及に大きく影響する業務とその内容について理解を深め、博物館資料に対する緊張感とその魅力を感じてほしい。学生の発言を聞き、課題について解決できるよう導きたい。
評価方法	試験、レポート及びカード等の提出物、授業への参加度
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	学芸員必修
担当教員			
塩田 達也			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	歴史系博物館における資料保存をテーマとし、古文書・古典籍（紙資料）を中心に、博物館資料の適切な保存についてその概要を知るとともに、実際の保存方法や保存環境について理解する。
授業計画	<p>第1回 博物館資料の概要(1)</p> <p>第2回 博物館資料の概要(2)～資料保存の意義および役割～</p> <p>第3回 博物館資料の基本的な保存方法・環境(1)〔美術工芸資料〕</p> <p>第4回 博物館資料の基本的な保存方法・環境(2)〔文書資料〕</p> <p>第5回 博物館資料の基本的な保存方法・環境(3)〔歴史・考古資料ほか〕</p> <p>第6回 展示における資料保存的概念</p> <p>第7回 展示空間における資料の保護と環境整備（特別展などの例）</p> <p>第8回 特別展等における借用資料に対する資料保存・管理</p> <p>第9回 古文書の国 日本—日本に紙資料がなぜ多いのか—</p> <p>第10回 紙資料保存の基本概念</p> <p>第11回 紙資料の実際的保存方法・環境(1)</p> <p>第12回 紙資料の実際的保存方法・環境(2)</p> <p>第13回 被災資料を救う—被災文化財等レスキュー事業—</p> <p>第14回 被災資料の処置・保存(1)</p> <p>第15回 被災資料の処置・保存(2)</p>
授業概要	まず、種別や材質・性質の違いなど、博物館資料全般の概要・資料保存の意義と役割を論じ、それぞれ適切な保存の方法や環境とは、いかなる考え方に基づいて実践されているかを論ずる。次に、古文書・古典籍（紙資料）等の保存について、その基本的な概念と実際的な方法・環境について論ずる。さらに、地震・津波等の被災資料に対する処置や保存に関する考え方についても触れる。
実務経験及び授業の内容	学芸員（博物館職員）の実務経験があり、この経験を生かし博物館資料保存論の授業を行う。
時間外学習	機会を見つけて、さまざまな博物館・美術館・資料館を見学しに行くこと。
テキスト	各回で資料を配付する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	博物館における資料の保存は、個々の資料の特性を理解し、それぞれに適した方法を選択しなければなりません。博物館資料保存の全般を知り、かつ実際的な方法・環境をここで学ぶことによって、個々の資料の保存に対応できる考え方・技術を会得しましょう。
評価方法	授業への参加度・レポート等
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	学芸員必修
担当教員			
阿部 哲人			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1、博物館展示の制作過程を理解する。 2、効果的な展示のための方法を理解する。
授業計画	<p>第1回 博物館展示の歴史と課題</p> <p>第2回 博物館の種類と展示手法</p> <p>第3回 博物館の建設</p> <p>第4回 博物館の建設</p> <p>第5回 博物館の建設</p> <p>第6回 企画展の制作</p> <p>第7回 企画展の制作</p> <p>第8回 企画展の制作</p> <p>第9回 展示のリスク</p> <p>第10回 展示効果の拡充</p> <p>第11回 展示効果の拡充</p> <p>第12回 展示効果の拡充</p> <p>第13回 展示の評価</p> <p>第14回 展示の評価</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	博物館の現状と、その基本的業務である展示のあり方と効果的な方法、課題について学び、実際に展示を企画するために基礎的な知識を習得する。
実務経験及び授業の内容	米沢市上杉博物館に学芸員として勤務しており、その実務経験を生かした授業を行います。
時間外学習	できるだけ多くの博物館や美術館に足を運び、展示の仕方の工夫や特徴、そのための扱い方の注意などを考えて下さい。
テキスト	参考文献は授業で指示。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	博物館で展示される資料が持つ価値を観覧者に伝えるためにどのような努力がなされているのかを理解してもらいたいと思います。
評価方法	試験
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	学芸員必修
担当教員			
小池 隆太			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	本講義の目的は、まずICT社会における「メディア教育」の基本理念を理解した上で、博物館・美術館等におけるメディアの活用及び情報発信の課題について判断することができる、そして、情報セキュリティや個人情報保護、ならびに著作物や知的財産の権利関係について配慮することができる、「学芸員としての」情報リテラシーの修得にあります。
授業計画	<p>第1回 メディアとコミュニケーション</p> <p>第2回 メディア教育の理論</p> <p>第3回 メディア教育の実践と事例</p> <p>第4回 学芸員とメディア技術</p> <p>第5回 視聴覚メディアの教育工学的特性（放送メディア）</p> <p>第6回 視聴覚メディアの教育工学的特性（記録メディア）</p> <p>第7回 視聴覚メディアの教育工学的特性（教育メディア）</p> <p>第8回 情報システムとコンピュータ</p> <p>第9回 メディアとインターフェース</p> <p>第10回 マルチメディアとインターネット</p> <p>第11回 著作権・著作隣接権</p> <p>第12回 著作物の権利処理</p> <p>第13回 知的財産権</p> <p>第14回 個人情報保護と肖像権</p> <p>第15回 ユビキタス社会とデジタルデバイス</p>
授業概要	現代のデジタルメディアをめぐる諸問題について、具体的には教育展示や情報提示のために用いられる視聴覚メディアの理論と歴史、情報処理とコンピュータの基礎知識、ならびに知的財産権と権利関係をめぐる問題について講義形式で学びます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	講義内容に関する課題を定期的に提出してもらいます。普段から博物館や美術館に関心を持ち、訪問の際にそこで活用されている視聴覚教育メディアや情報機器に着目する（可能であればメモをとっておく）ことを求めます。本学のオンライン学習システムであるMicrosoft Teamsを活用した課題やリアクションペーパーの提出によって、学修内容を深めてもらう予定です。
テキスト	資料プリントを適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	デジタルメディアが博物館・美術館にもたらす新しい可能性について考える科目です。これらの施設を利用する際には利用者にとっての情報・教育コミュニケーションのあり方を考えてください。
評価方法	授業での課題提出50%、期末レポート課題50%。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	学芸員必修
担当教員			
山口 博之			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 博物館における教育活動を支える基礎的・基本的な教育理論、博物館固有の教育方法、社会教育機関としての位置づけと役割を理解する。 2. 博物館における教育活動に携わるうえでの基礎的な能力を養うことを目指す。		
授業計画	第1回	博物館教育の理念 博物館を通して行われる教育の理念と特徴を知る	
	第2回	博物館教育の歴史と意義（1） 山形県立博物館の活動を通して概要を把握する	
	第3回	博物館教育の歴史と意義（2） 山形県立博物館の活動を通して社会教育や学校教育との違いを知る	
	第4回	博物館展示の教育的意義（1） 展示がどう構成されているか教育的側面から考える	
	第5回	博物館展示の教育的意義（2） 自らの博物館経験を通して考える	
	第6回	博物館展示の教育的意義（3） 世界の博物館の歴史と求められた意義を知る	
	第7回	博物館展示の教育的意義（4） 日本の博物館の歴史と求められた意義を知る	
	第8回	地域と博物館（1） 地域と博物館をつなぐ視点を知る	
	第9回	地域と博物館（2） 地域の博物館について教育的工夫を知る	
	第10回	学校と博物館（1） 博物館と学校との教育的共同を知る	
	第11回	学校と博物館（2） 博物館と学校との教育的共同の方法を知る	
	第12回	展示補助資料の目的と作成（1） 博物館展示の教育的工夫を知る	
	第13回	展示補助資料の目的と作成（2） 博物館展示の具体的資料を学ぶ	
	第14回	博物館におけるボランティア 博物館ボランティアの実際と理念を知る	
	第15回	レポート作成 自らの博物館体験についてまとめる	
授業概要	教育原理を踏まえて博物館教育の概要を講義するとともに事例に基づく演習も行う。		
実務経験及び授業の内容	山形県立博物館学芸員としての実務経験を基に基礎と実践を深める。		
時間外学習	博物館の実施する教育普及活動への参加。		
テキスト	適宜プリントを配布、必要に応じて参考文献や書籍を紹介する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	博物館は好きですか？、どんなところが？。この講義では博物館の教育的側面を学習します。まずは身近な博物館へ何回も足を運んでみてください。そして博物館の実施する教育普及活動へ参加してみてください。またさまざまな博物館の教育活動を自分で考えることにも挑戦してみてください。		
評価方法	授業への出席、および課題・演習へ取り組む姿勢、レポート提出		
参考文献			
備考	講義内容と進行は学生諸氏の理解を踏まえ内容構成を適宜見直す。		

講義科目名称：博物館実習一（90090）

授業コード：90090

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	学芸員必修
担当教員			
阿部 哲人			
			授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	博物館では資料原本を扱うことが職務では必須である。この授業では、その資料の扱い方について、資料に向き合う姿勢、実際の扱い方を学び、資料の整理などを通して実践的な知識・技術の習得を目指す。日本史学専攻の学生が大半であるので、歴史資料を中心とした実習になる。		
授業計画	第1回	博物館における資料と資料に向き合う姿勢	
	第2回	資料の扱い方（文献資料①）	
	第3回	資料の扱い方（掛軸①）	
	第4回	資料の扱い方（卷子①）	
	第5回	資料整理（文献資料①）	
	第6回	資料整理（文献資料②）	
	第7回	資料整理（文献資料③）	
	第8回	資料の扱い方（文献資料②）	
	第9回	資料の扱い方（掛軸②）	
	第10回	資料の扱い方（卷子②）	
	第11回	資料整理（文献資料④）	
	第12回	資料整理（文献資料⑤）	
	第13回	資料整理（文献資料⑥）	
	第14回	資料整理（文献資料⑦）	
	第15回	資料整理（文献資料⑧）	
授業概要	実際の資料を扱う実践を通して、学習していきます。		
実務経験及び授業の内容	米沢市上杉博物館に学芸員として勤務しており、その実務経験を生かした授業を行います。		
時間外学習	できるだけ多くの博物館や美術館に足を運び、展示の仕方の工夫や特徴、そのための扱い方の注意などを考えて下さい。		
テキスト	授業で指示		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	資料の扱いは実践を通して身につけていくものです。急がず、ゆっくりとやっていきましょう。		
評価方法	平常点と出席		
参考文献	授業で指示		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	2	2	学芸員必修
担当教員			
吉田 歆・小林 文雄			
			授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	博物館において実習を行う。 到達目標 ①学芸員としての資質を身につけることができる。 ②実習によって実践力を身につけることができる。 ③学芸員としての心構えを身につけることができる。
授業計画	<p>第1回 事前指導 1 博物館実習の心構えと準備</p> <p>第2回 事前指導 2 各館での実習予定の確認</p> <p>第3回 館園実習 1 各館における博物館実習の実施</p> <p>第4回 館園実習 2 各館における博物館実習の実施</p> <p>第5回 館園実習 3 各館における博物館実習の実施</p> <p>第6回 館園実習 4 各館における博物館実習の実施</p> <p>第7回 館園実習 5 各館における博物館実習の実施</p> <p>第8回 館園実習 6 各館における博物館実習の実施</p> <p>第9回 館園実習 7 各館における博物館実習の実施</p> <p>第10回 館園実習 8 各館における博物館実習の実施</p> <p>第11回 館園実習 9 各館における博物館実習の実施</p> <p>第12回 館園実習 10 各館における博物館実習の実施</p> <p>第13回 館園実習 11 各館における博物館実習の実施</p> <p>第14回 事後指導 1 実習内容の振り返りと成果の整理</p> <p>第15回 事後指導 2 受講者全員による実習成果報告会と質疑応答</p>
授業概要	<p>①「博物館実習一」で実務指導を行い、直前に事前指導を行って学外の博物館で実習を行う。</p> <p>②博物館実習ノートにのっとり、博物館見学などに関する指導を行う。</p> <p>③学外実習後の博物館実習ノートをもとに、事後指導を行う。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	土日祝日を利用してさまざまな博物館・資料館などを見学しに行くこと。
テキスト	なし
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学外での博物館実習を経験した上で、学芸員として必要なことは何かを自覚して欲しい。
評価方法	各館の評価（60%）、博物館実習ノートと事前指導・事後指導への取り組み方（40%）
参考文献	
備考	